



▲蛭子神社の百度石



▲百度石の裏面に刻まれた碑文(拓本)

背景

徳島市南沖洲の蛭子神社境内に、百度石があります。百度石は、子どもが病気になった時や家族に不幸が訪れた時などに、願いがかなうようにお百度を踏む(100回お参りをする)際の起点となる石です。多くの方が何度も何度も目にする蛭子神社の百度石に、安政南海地震のことが記されていました。石の風化がひどく、今では判読できる碑文は限られていますが、「徳島市史」や「蛭子神社記」、「阿波における地震の研究」から碑文の内容が分かります。後世の人に津波の教訓を伝えたいという思いが伝わってきます。

アクセス 蛭子神社

- JR徳島駅より東へ直線距離約3.5km
- 徳島市南沖洲1-2
- 緯度経度 北緯34度03分59秒, 東経134度35分05秒



南海地震は、江戸時代以降でも、慶長九年(一六〇五)、宝永四年(一七〇七)、嘉永七年(一八五四)、昭和二十一年(一九四六)というように、周期的に起こってきました。この南海地震の周期性を後世に伝えるために、人々はさまざまな工夫をしてきました。

徳島市の蛭子神社では、百度石に南海地震の周期性が記されています。今日では石の劣化がひどく、判読できる碑文は限られていますが、以下のような内容が記されていました。

……嘉永七寅年十一月五日、大地震が起こりました。人々はうろたえて、木や竹の根が絡む藪の中に駆け込み、津波が来ると騒いでいました。舟に乗って流され、危ういところを助かる者もいれば、舟が転覆して命を失う者もありました。舟に乗ってはいけません。家が潰れて、こたつやかまどから出火して、多くの家や蔵が焼けてしまいました。こういう時には心を鎮め、火の元に気を付けることが大切です。ももとせ(百年)しないうちに、このような地震・津波がやってくると言われていきます。……

「ももとせ(百年)を経ぬほどにはかような震瀟有り」と刻まれた碑文は、南海地震の周期的な発生を予測し、警鐘を鳴らしています。まさしく嘉永七年(一八五四)から百年経たない昭和二十一年(一九四六)に南海地震が起こり、昔からの言い伝えを尊重することの重要性を証明しています。